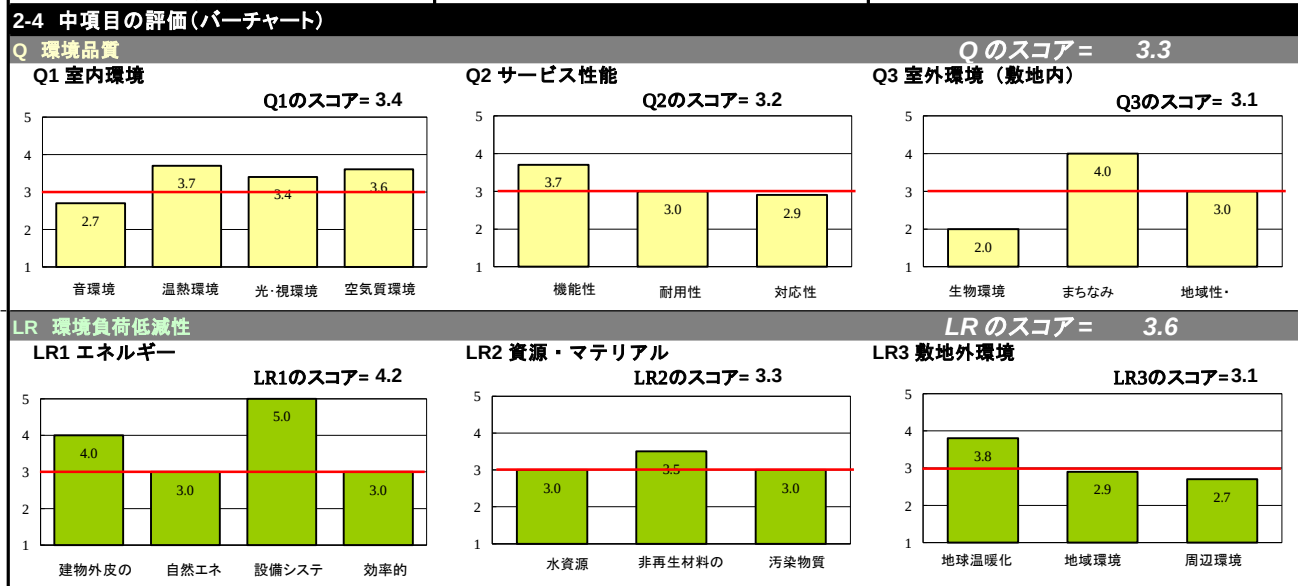
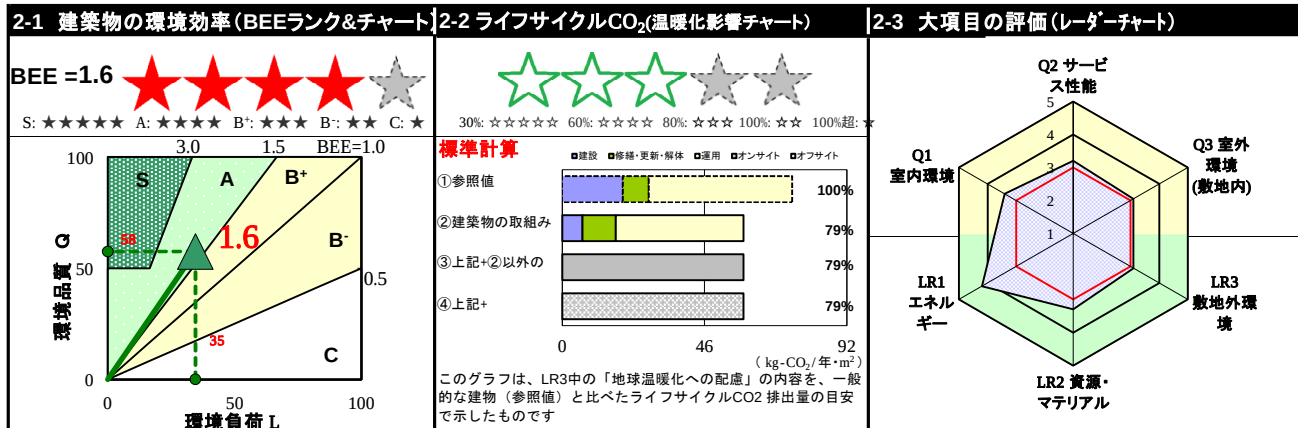


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	みのお・B・C団地建替事業建設工事	階数	地上5F
建設地	大阪府箕面市箕面	構造	RC造
用途地域	市街化区域、第1種中高層住居専用地域、	平均居住人員	462 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2025年4月10日
敷地面積	15,876 m ²	作成者	株式会社遠藤剛生建築設計事務所
建築面積	2,889 m ²	確認日	2025年4月24日
延床面積	9,764 m ²	確認者	株式会社遠藤剛生建築設計事務所



3 設計上の配慮事項		
総合		
・従前の桜やハナミズキの並木など、地域の生活や緑の景観は建物のセットバックとともに周辺への圧迫感を軽減し、地域に馴染むよう配慮し計画している。		
その他		
太陽光エネルギーを共用部分にて利用している		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・住宅性能表示の温熱環境対策等級4	・建築物移動円滑化基準を満たす	・街並み・景観について、配置・植栽・色彩・記憶の継承・周辺からの景観に配慮
・建材はF☆☆☆☆	・共用部・外装仕上の防汚、防錆に配慮	
・幅広サッシ採用	・共用部の維持、管理、修繕、清掃に配慮	
	・住宅性能表示の劣化対策等級3	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・住宅性能表示のエネルギー消費量対策等級4	・内外装材の一部に特定調達品目を採用	・指導された規模の雨水流出抑制対策を実施している。
	・解体時におけるリサイクルを促進させる対策として、木造軸組下地、乾式二重床使用。	・適切な駐輪スペースの確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)	受付番号	R7-変-0002
Osakafu-新築・既存 2018V1.0		

【建物概要】	建物名称	みのお・B・C団地建替事業建設工事							
建設地		大阪府箕面市箕面							
用途／区分		集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A		
①	CO2削減						4		
②	みどり・ヒート アイランド対策						2		
③	建物の断熱性						4		
④	エネルギー削減						5		
⑤	自然エネルギー直接利用						○		
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		